

海外客の救急搬送増

西胆振 言葉、無保険で問題も

登別温泉や洞爺湖温泉を訪れる外国人観光客の増加に伴い、病院への救急搬送も急増している。西胆振で最も搬送が多い室蘭市の製鉄記念室蘭病院は本年度、22日までに15件を受け入れ、すでに昨年度の11件を上回った。西胆振全体でも過去最多だった昨年度の51件を上回りそうだ。言葉の問題もあり、治療拒否や料金不払いなどのトラブルも続出。例年、旧正月・春節(28日)時期の搬送が多くなることから、医療関係者は頭を悩ませている。

(生田憲)

「室蘭の病院に再入院したい」。昨年7月、製鉄記念室蘭病院を希望して退院した韓国女性(74)からこんな連絡が入った。女性は

旅行中、階段を踏み外して右脚を骨折し病院に搬送された。医師から「手術を受けなければ移動中に死ぬリスクもある」と説明された

が、帰国を強く希望し退院。空港で航空会社に搭乗を拒まれ、添乗員を介し再入院を要請したという。本人の希望があっても治



登別温泉街を歩く外国人観光客の波。旅行中の急病への対応も課題になっている

療せずに退院を許可すると、死亡や重い後遺症が生じた場合、「適切な説明を行わなかった」などとして病院に責任が及ぶ可能性もある。このため病院は自己責任で退院することを確認する誓約書を書いてもらっている。

外国人が退院を希望して帰国する背景には無保険での渡航がある。高価な抗生剤の処方拒否や治療費を未払いのまま帰国するケースもあるという。このため製鉄記念病院は入院時にクレジットカードの利用限度額を確認、外来の際は預かり金3万円を徴収している。

英語を話せない外国人患者も多く、室蘭市医師会副会長も務める前田征洋院長は「観光客に安心して来てもらえるよう医師会として、翻訳サービスの導入や正しい誓約書作成方法などを検討したい」と話す。

登別市と、洞爺湖温泉街を抱える洞爺湖町、壮瞥町の2015年度の外国人宿泊客数は前年度比25・7%増の86万5千人。宿泊客全体の4割近くを外国人が占めている。